

2024 年度カダバー・サージカル・トレーニング 実施後アンケートの結果報告

杉戸 信彦

要約：岐阜大学のカダバー・サージカル・トレーニング（CST）は、岐阜県厚生連の寄附を受けて寄付講座が立ち上げられ、2022 年度から実施されている。本年度で実施 3 年目を迎え、三年間で通算 300 名を超える参加者を得た。今後のより良い CST 実施運営に向けて、参加医師に対して岐阜大学 CST に関するアンケート調査を実施した。対象は 2024 年度 CST に参加した医師とし、CST 実施後 2 週間以内に回答を回収した。結果、幅広い年代の回答者がほぼ全員、今回の CST に満足しており、来年度以降の実施を希望していた。

導入

岐阜大学で実施されているカダバー・サージカル・トレーニング(CST)は、2022 年から 3 年目になる。2012 年に日本解剖学会と日本外科学会が発表したガイドラインにより、全国の大学で CST が普及していった。岐阜大学でも、岐阜県厚生連の寄附による寄付講座が立ち上げられ、2022 年度からようやく CST を実施できるようになった。実施 3 年目を迎え、今後のより良い CST 実施運営に向けて、参加医師の所感を知る必要がある。そのため、実施後アンケート調査を行った。実際に参加しアンケートの回答をいただいた医師の性別、卒後年数、満足度とその理由について回答を取りまとめた。

方法

Google form を用いて、オンライン回答フォーマットを作成し、各診療科実施後 2 週間以内に回答を回収した。

結果

2024 年度の参加者 103 名のうちメールアドレスの分かる 89 名にアンケートを実施した。学外参加者のメールアドレスが分からなかった。そのうち、43 名の回答を得て、およそ 48% の回答率だった。

回答者の性別は、93.2%男性で、6.8%女性だった（図 1）。

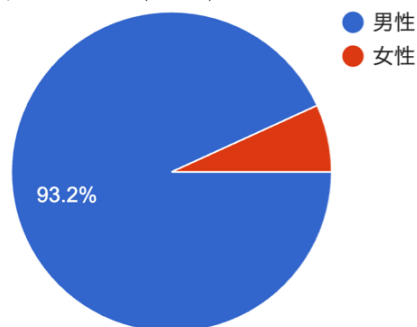


図 1. 回答者の性別

回答者の卒後年数は、11 - 15 年目の医師が多かったが、その他の年代も満遍なく抽出できた（図 2）。

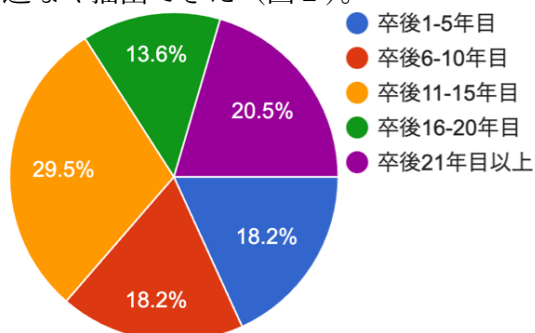


図 2. 回答者の卒後年数

回答者の 97.7%が今回の CST に対して満足だと回答した (図 3)。

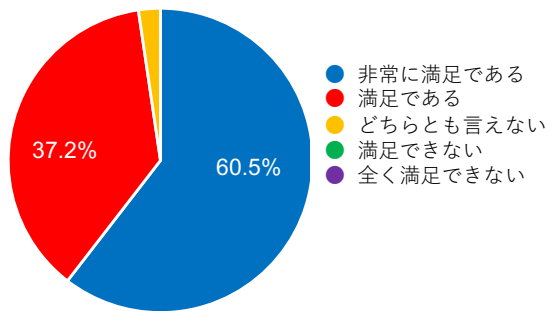


図 3.回答者の満足度

満足度の理由を以下にまとめる。

満足した方の意見

- ・経験したことない手技を時間を気にせず経験できた
- ・人体で術式の確認ができた
- ・まれな術式を行うことができた
- ・生体では見ることができない部分を確認できた
- ・若手指導ができた
- ・若手が熱心に取り組むところを見られた
- ・手術室に近い環境で実施できるのがいい
- ・血が出ないのがいいが、実際の手術でどのくらい出血するのかが不安
- ・(麻酔科) 薬液の広がりを確認できた
- ・来年度以降も継続して参加したい

どちらとも言えない方の意見

- ・実際の手術に近いところ違うところがある

まとめ

幅広い年代の回答者がほぼ全員、今回の CST に満足していた。来年度以降も参加したいという回答も多くみられた。ドライ・アニマルラボと比べ、ご遺体ならではの得難い経験を得ている。アンケート回答率が参加者の 48%であったため、回答率を向上できるように工夫したい。